

あなたは、12年5ヶ月の監禁事件を、無視できますか？

すぐそこにある、人権侵害

— 人類歴史を通じての解決課題 —

人類歴史始まって以来、力を持つ者が他者を暴力的に抑圧し、自己の独断的な考えの下、その意にそぐわなければ有無を言わず自由を奪い、時には投獄し、時には殺害する、そのような悲劇が繰り返されてきました。それでも抑圧された人々は、なすすべ無く、無念のうちに時だけが過ぎていく、暗く、不幸な歴史が続いてまいりました。しかし、近代に至り、人間存在の尊さに覚醒した人々は自由を叫び、解放を要求し、人間の基本的な権利を時の権力者から奪還すべく血みどろの闘いを繰り広げてまいりました。その先覚者たちの数多（あまた）の尊き犠牲により、現代社会においては、世界的に自由と基本的人権が保障され、今日の我々は、その恩恵を十二分に享受していることは周知の事実であります。

しかし、このような時代的な趨勢にもかかわらず、いまだに世界では自由と人権が無残にも踏みにじられ、侵害されている数多くの事例が報告されており、我々の心を暗くしております。日本人拉致問題でよく知られる隣国北朝鮮の現状が、まさにその代表的な例だと言えるでしょう。無辜の日本人が突然、北朝鮮工作員に襲撃され、拉致されていく。泣こうがわめこうが、なすすべがない……。そのことに少しでも思いを馳せてみたことのある人ならば、例外なく、誰もが胸を締め付けられる思いに駆られるのではないのでしょうか。

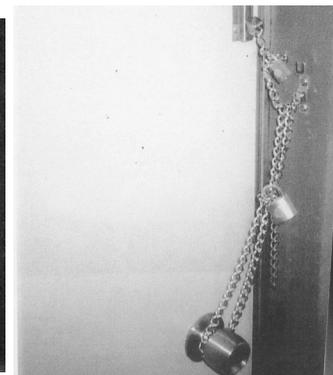
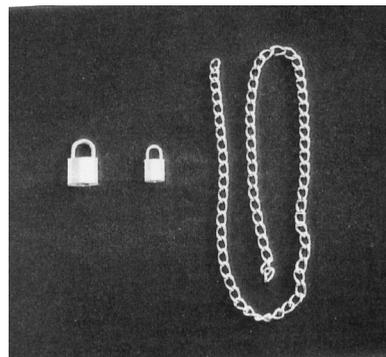
我が国は、自由と人権が確立された先進民主国家として、それらの蛮行を傍観することなく、断固として糾弾し、問題意識を持ち続けていかなければならないことはいうまでもありません。

信じられない、統一教会員への拉致監禁行為

— 犠牲者は4000人以上も！ —

ところで、その自由と人権が確立されているはずの、この日本国において、信じられないような、人を人と扱わぬ、卑劣な人権侵害が、今、現在も野放しにされていることを知る人は、世に多くはありません。

皆様は、世界基督教統一神霊協会（統一教会）という名を耳にされたことは、おありでしょ



◀ 多くの場合、監禁場の玄関は南京錠と鎖で細工されます。

うか？ さる1992年、とある有名人が文鮮明教祖の主催する合同結婚式に参加し、世間の耳目を集めたことを記憶する人は、多いと思います。世間からは「得体の知れない団体」「カルト教団」などと批判され、あまり良いイメージはありません。

皆様は、にわかには信じられないかもしれませんが、日本統一教会では、過去40年間に亘って、判明しているだけでも実に4000件以上もの脱会説得のための拉致監禁事件が起きているのです。信者が、ある日、突然、ある者は自宅にて、またある者は路上にて、時には寝込みを襲われ、さらには教会建物を襲撃され、拉致された上、車にて連行され、マンションやホテルの「監禁場」にて厳重に隔離され、外部の情報、連絡などを一切遮断された上で、一方的な情報のみ与えられ、脱会説得を強要されるのです。信者は一度監禁されると、泣こうがわめこうが騒ごうが、脱会を表明するまでは脱出できない環境に追い込まれます。多くの場合、玄関は内側から鎖をかけられ、南京錠で施錠され、窓という窓はすべて内側から脱出できないように念入りに細工されます。その、あまりに理不尽な仕打ちに対し、憤激しながら脱出を試み、ある者はマンションの上層階から飛び降り、また、ある者は液体洗剤を飲み干し、中には絶望のあまり、自殺に追い込まれる者もいます。さらに、監禁から解放された後も、不安や情緒不安定、不眠、集中力や意欲の減退などといった心的外傷後ストレス障害 PTSD の症状を発症し、拉致・監禁の後遺症に悩まされ、社会復帰が困難になるケースも少なくありません。

信じていただけないかもしれませんが、実は私自身、最初は新潟にて、その後、場所を移して、この地、荻窪にて、合計12年5ヶ月という長期間に亘って監禁されたのです。

問題すり替えて犯罪を野放し

— 周囲はただ「見て見ぬふり」 —

それでは、なぜ、このような信じがたい人権侵害が野放しにされているのでしょうか？それには2つの理由があります。一つは、「あの統一教会の問題だから」ということです。2つ目は「親子の問題だから」ということです。

つまり、あの、問題ある統一教会にマインドコントロールされている信者を救出するためには他に方法がないのだ。本人がいかに嫌がろうとも、拉致し、監禁し、説得する以外、すべがないのだ。そして、これは心配する親が子供を説得する、親を含めた家族間の話し合いの場であって、刑事事件にはなりえないのだ、というのです。このような理由から、実際にはマインド・コントロール理論など科学的に実証されたものではないにもかかわらず、明らかな拉致・監禁を「家族による保護」と巧みに言い換え、正当化するのです。そして、それを黙認し、許容する世間のいわゆる「空気」によって、このような犯罪行為が野放しにされ続けているのです。「見て見ぬふり」がなされているのです。

しかし、皆様、物事には何事も「越えてはならない限度」というものがあるのでないでしょうか？ 前述しましたように、日本は言論、出版、集会、結社、表現の自由が憲法にて保障されており、従って、統一教会を問題視して、批判を加え、その信者を説得して、脱会へと促すのも、もちろん自由であります。そのための「話し合い」を、自由闊達に大いにやればよいのです。しかし「他に方法がないから」「親子の問題だから」という理由で拉致監禁による暴力的強制改宗を「保護」という言葉に置き換え、その犯罪行為を正当化することは明らかな欺瞞であります。

このような明らかな犯罪行為が許容され、野放しにされるとするならば、果たして日本はまともな自由と民主の国と言えるのでしょうか？



◀▲日本は、中世の私刑、魔女狩りをいまだに黙認するような国なのでしょうか？

現代日本は私刑を容認するのか？

— 日本を真の自由と民主の国に！ —

しかし、事実、今、現在も、このような脱会説得のための拉致監禁が日本全国各地で行われているのです。そして、その「監禁場」は、日本国内にありながら、何でもありの「無法地帯」と化しているのです。このような“私刑”がまかり通るようでは、ましてや国家権力たる刑事司法機関までもがそれを黙認し、「親子問題」で片付けて、見て見ぬふりをするとするならば、日本はまさに「魔女狩り国家」の誹りをうけても弁明できません。

「甌かいより始めよ」。日本が北朝鮮の拉致を糾弾するならば、まず自国の「拉致問題」を解決すべきではないでしょうか？ 日本を愛する皆様、日本を真の自由と民主の国とするために、是非とも、この問題に関心を持って下さい。そして、果たして、拉致監禁という犯罪を放置したままで健全な民主国家と言えるのか、一度、共にじっくりと考えてみませんか？ その上で、皆様、このような暴力的な拉致監禁を共に一掃しようではありませんか！



◀ 2008年7月、『洗脳の楽園』（洋泉社／97年）、『カルトの子』（文藝春秋／2000年）（ともに大宅賞候補作）などの著作で＜反カルト＞の第一人者として知られジャーナリスト、米本和広氏が新刊『我らの不快な隣人』（情報センター出版局）を出版しました。

本書は、私、後藤徹の拉致監禁について報じると共に、拉致監禁の数十年に渡る歴史と、監禁現場での悲惨な現実、監禁側が主張する「マインドコントロール」理論の欺瞞性、そして拉致監禁自体が引き起こした精神障害や家族破壊について明らかにしています。ぜひご一読下さい。

本書は以下で購入する事が出来ます。

<http://www.amazon.co.jp/dp/4795847622>

※このビラの内容に興味がある方は、下記にご連絡下さい！

後藤徹（ゴトウ トオル）

携帯メールアドレス goto1102 @ softbank.ne.jp